

## 外国特許の商用データベースの比較

知的財産情報検索委員会  
第 3 小委員会\*

**抄 録** 多くの外国特許情報の商用データベース（外国特許DB）が提供されているが、なかでも本研究テーマでは、米国特許、ヨーロッパ特許およびPCT（特許協力条約）の全文情報を提供している外国特許DBを中心に比較検討を行った。本稿では企業の活用目的に適った外国特許DB選択の一助となるべく、様々な観点からの比較検討を紹介する。

本研究テーマでは、各外国特許データベースを様々な観点から比較検討すると共に、150以上の項目に渡り機能比較表を作成した。尚、一部詳細説明が必要と思われる事項については、画面例を用いて説明しているため情報量が多く、すべてを本稿で紹介することができない。従って本稿では基本的な比較検討事項を主として紹介する。詳細内容は、別途発行するCD-ROM資料を参照して頂きたい。

### 目 次

1. 研究の課題
  1. 1 背 景
  1. 2 目 的
  1. 3 検討の手順
  1. 4 検討した外国特許DB（8種類）
2. 各データベースの特徴を捉えた機能別まとめ
  2. 1 複数の特許発行国の全文検索を一括でできる
  2. 2 検索項目が多岐に渡る
  2. 3 検索機能に優れている
  2. 4 SDI（注記2）参照）機能を有している
  2. 5 表示機能・ダウンロード機能に優れている
  2. 6 検索式・検索回答の保存機能を有する
  2. 7 検索式・検索回答の共有機能を有する
  2. 8 操作性に優れている
  2. 9 加工・解析機能に優れている
  2. 10 管理機能を有している
  2. 11 引例分析機能を有している
  2. 12 その他、データベース固有の付加機能を有している
  2. 13 料金がかかる
  2. 14 アクセスに制限がある
3. 各データベースの概要と特徴
4. 外国商用データベースの機能比較

5. 外国商用データベースの検索事例
6. 目的別比較表
  6. 1 ★の数の評価基準
7. 最後に

### 1. 研究の課題

#### 1. 1 背 景

知財立国に向けた取り組みが本格化するなか、世界の特許情報をインターネットを通じて収集できるようになり、多くの外国特許情報の商用データベース（外国特許データベース）が提供されている。各国特許庁も保有する最新の特許情報を無料で提供しており、ユーザーにとっては、目的に応じて特許情報を収集できる環境が整いつつある。特に外国特許データベースの機能は益々豊富になってきており、これらの特徴も多岐に渡っており、これらの外国特許DBを如何に活用するかは、企業にとって非常

\* 2004年度 The Third Subcommittee, Intellectual Property Information Search Committee

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

に重要なファクターとなっている。

しかしながら、外国特許データベースは種類が増えて、更に機能・特徴・料金体系が多岐に渡り、データベース毎に異なるため、一般ユーザーにとって目的に合った比較検討を行いにくい状況にあると思われる。

今回は、各種サービスのうち、米国特許、ヨーロッパ特許およびPCT（特許協力条約）の全文情報を提供している外国特許データベースについて、様々な角度から比較検討を行った。一年にも満たないという時間的制限・人数的制限のなか、多少冒険的なテーマであるにも拘わらず、できるだけ多くのデータベースを比較したいと考え、メンバーの貴重な経験・知識等をフルに動員して、以下のようにまとめた。

## 1. 2 目 的

外国特許データベースを比較検討し、これらの特徴を明らかにすると共に、様々な観点から比較検討して、企業の目的に叶ったデータベースを選択するための資料を作成した。なお、外国特許データベースを使い慣れていない一般ユーザーにとっても分かりやすいものとするのを配慮した。

## 1. 3 検討の手順

(1) まず、各外国特許DBについて、ほぼすべての機能を調べて150以上の項目について比較表をまとめた。

(2) さらに、商用データベースならではの多くのメリットを中心にデメリットも取り上げ、各外国特許データベースの長所短所を明らかにすると共に、機能だけでなく、使い勝手や契約形態も考慮して、比較検討を行った。

(3) また、もっと詳しい説明が必要であると判断した内容については、画面例を織り込んで説明資料をまとめた。

(4) 最後に、一般的に調査検索作業の際に行

われると思われる4種類の作業について、共通の具体的な調査テーマを設定して各外国特許DBの実際の操作・検索・特徴・問題点をまとめた。

## 1. 4 検討した外国特許DB（8種類）

- ・ PatentWeb
- ・ Delphion
- ・ FOCUST
- ・ QPAT
- ・ PatBase
- ・ WIPS
- ・ WPI/Dialog
- ・ PATOLIS

2004年4月時点で存在していることが把握できたものを対象にした。データの内容は、2005年3月時点のものを採用している。

## 2. 各データベースの特徴を捉えた機能別まとめ

商用データベースのメリット・デメリットに関する検討結果をまとめた。

詳しく説明した方が良いと思われる事項については、画面例を交えて説明した資料を作成した。

### 2. 1 複数の特許発行国の全文検索を一括でできる

(1) WPIを除き、どのデータベースも基本的にはUS, EP, WOの全文及びINPADOCを収録。これらに関しては収録期間やタイムラグに大差はない。但し、FOCUSTでは、本文言語が英語のものしか収録していない。

(2) 最近では日本のPAJに加え、欧州のDE, GB, FR全文を収録しているデータベースや、アジアCN, KR, TWの序発行英文抄録を収録しているデータベースが出てきている。

(3) 多くのデータベースが1特許/1レコー

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

表1 各データベースのレコード形式一覧

データベース	全文データベース		抄録データベース	
	1 特許/ 1 レコード形式	1 ファミリー/ 1 レコード形式	1 特許/ 1 レコード形式	1 ファミリー/ 1 レコード形式
PatentWeb	○			○ (MPI)
Delphion	○			
FOCUST	○			
QPAT	○		○ (PlusPat)	○ (FamPat)
PatBase		○		
WPI				○
WIPS	○			
PATOLIS	○			

ド形式であるのに対し、WPI、PatBase及びQPATに収録されているワールドワイド系のFamPatは1ファミリー/1レコード形式である(表1参照)。

(4) INPADOCの書誌事項による検索機能を有しているデータベースはPatentWeb、Delphion及びPATOLISである。PatentWebではINPADOCとDOC-DBを併せて、MPIというデータベースに収録しており、これについては書誌事項に加えて、抄録での検索も可能である。他のデータベースについては、各レコードの法的状況及びファミリー照会にINPADOCを利用している。

## 2.2 検索項目が多岐に渡る

(1) ECLA分類が検索の対象となっている(PatentWeb、Delphion、QPAT、PatBase、PATOLIS)。

(2) DelphionではWPIが検索(追加料金が必要)でき、ダウエントタイトルの検索、WPIの会員コードが利用できる。

## 2.3 検索機能に優れている

(1) 殆どのデータベースは、利用者のレベルに合わせた検索画面をもっている。

(2) 検索機能面では、近接演算(近傍検索)、

フレーズ検索、前方一致検索など基本的な検索機能に加えて、検索履歴間の演算がどのデータベースも可能である。他の特徴として、手持ちの番号リストから検索集合を作成することができるものもある(FOCUST、Delphion、PatBase)。

(3) 検索の重要な項目であるIPCなどの分類検索において範囲検索が可能なものもある(QPAT、PatBase、WPI)。

(4) 検索画面は、予め検索項目とターム(用語)の入力欄が複数行用意され、それらを演算して検索できるようになっているが、殆どのデータベースがコマンド検索にも対応している。

(5) WPIにはEXPAND機能があり、PatBaseもEXPAND(注記1)参照)相当の機能を有している。

## 2.4 SDI(注記2)参照)機能を有している

(1) PATOLIS以外は全てSDI機能を有している。QPAT、PatBaseは固定額とは別に追加料金が発生する。WPIも従量制であり、料金が発生する。

(2) FOCUSTにおいては、対象公報が引用された場合のSDIを行うことができる。

(3) PatentWeb(MPI)はINPADOCデータ対象のSDIを行うことができる。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

## 2. 5 表示機能・ダウンロード機能に優れている

(1) 各データベースとも最初の検索結果表示画面に持てる機能のほぼ全てを連動させており、検索結果の表示・ダウンロード、公報取得の各オプション機能の殆どが最初の画面から行える。

(2) ダウンロード面ではTEXT出力はもちろん、殆どのデータベースでCSV出力が可能となっている他、HTML、MSWord書式での出力も用意されているものが多く、検索結果の編集、データ処理が容易である。

(3) 公報のイメージ出力方式としてはPDFファイルを採用しているデータベースが殆どである。

(4) WIPSだけは専用のフリーソフトでpiv形式でダウンロードする。このWIPSのダウンロード機能はちょっと曲者で社内セキュリティシステムによっては動作しない場合があるようなので導入に際しては要注意。

(5) Delphion以外は検索タームをハイライトする機能を持っている。特に、PatBaseは検索タームの出現頻度表示、6色までの色分けハイライトなど、この点に関しては充実している。

(6) PatBase, QPATはクレーム、フルテキストまで含めたヒットレコードの連続表示機能がある。

## 2. 6 検索式・検索回答の保存機能を有する

(1) QPATとPATOLISについてはLOGOFF

後まで式・回答の保存ができない。

(2) PatentWebについては、回答の保存は可能であるが、保存期間に制限がある。

(3) WPI/Dialogについては、回答集合中の特許番号をMAPコマンドで保存することが可能（1週間無料）であるが、永続保存は有料（表2参照）。

## 2. 7 検索式・検索回答の共有機能を有する

(1) サーバ上に共有フォルダを設け、フォルダにストアされた情報から分析・加工・ダウンロードなどへと展開させていく機能を有しているのがPatentWeb (WorkSheet), Delphion (Work File), FOCUST (プロジェクトフォルダ), WIPS (MyFolder) 及びPatBaseである。

(2) FOCUSTとWIPSはプロジェクトフォルダの作成者がアクセス可能なIDを指定でき、アクセスレベルの制限（ユーザ1はプロジェクトフォルダの閲覧と加工が可能。ユーザ2は閲覧は可能だが加工は不可能等）もかけることができる。

(3) PatentWebはアクセス制限はできないが、一つのIDで複数人が同時にログイン可能で、検索式や回答集合の共有が簡単に行えるというメリットがある。

## 2. 8 操作性に優れている

(1) 商用データベースは、頻繁に使うボタン（SEARCH, LOGOUT, SAVE, DOWNLOADなど）が常に見えている状態のことが多い。

(2) 特にDelphionは初心者にも使いやすい

表2 検索式・回答集合の保存期間

	PatentWeb	Delphion	FOCUST	QPAT	PatBase	WPI/Dialog	WIPS	PATOLIS
(式) 保存期間	18時間 or永続	永続	永続	×	永続	7日間 or永続	永続	×
(集合) 保存期間	18時間 or永続	永続	永続	×	永続	7日間 or永続	永続	×

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

画面設定となっている。

(3) FOCUST, WIPS及びPatBaseは日本語表示であるため操作しやすいという特徴がある。

(4) FOCUSTは、次の画面に移っても前の画面も表示されているため、自分がどの位置にいるのかを把握しやすく、戻りたい位置にすぐに戻れる特徴がある。

## 2. 9 加工・解析機能に優れている

(1) 加工・解析機能で特徴的なのはDelphion (Snapshot), FOCUST (アナリシスモジュール) 及びWIPS (PMマネージャー) である。いずれも2次元解析とキーワードクラスタリング(注記3)参照)を標準機能として備えている。

(2) Delphionのキーワードクラスタリングは、特定の1キーワードではなく、関連するキーワード群を共有する特許群を類似特許としてまとめている。

(3) FOCUSTは他のデータベースにはない独特の解析機能(発明者グループ予測機能や、特定2社間相互引用状況解析)を有している。

(4) WIPSは検索結果を解析できるだけでなく、別途取り込んだcsvデータの解析や、csvデータとWIPS検索結果のコンバインが可能である。

## 2. 10 管理機能を有している

(1) Delphion, PatBase及びWIPSにはID, アクセス管理機能(ユーザーごとに利用制限をかけたり、各ユーザーの利用状況を把握し、費用付替時の指標にしたりできる機能)があるが、その他のデータベースにはない。

## 2. 11 引例分析機能を有している

(1) Delphion, FOCUST, QPAT, WIPS及びPatBaseはいずれも引例分析機能があり、Delphion, FOCUST, QPAT及びWIPSは引用、被引用をツリー化する機能と、それらに出願人、

発明者、USClassの情報をツリー図中に付加する機能がある(QPATはツリー上でのECLA分類の表示も可)。

(2) 引用情報に秀でているのはFOCUSTである。米国の直接引用のみを対象にしているデータベースが多い中、間接引用やEP, JPの引用情報の入手が可能であり、引用情報のSDIも可能となっている。

(3) WIPSは、引用・被引用情報の集合を、出願人や分類だけでなく、キーワードでも絞りこむことも可能。

## 2. 12 その他、データベース固有の付加機能を有している

(1) PatentWebは全文キーワードを対象とした検索結果をファミリー単位で表示でき(但し、検索対象はあくまでも特許単位であり、検索で抽出されたレコードしかファミリー化されない)、同一発明の重複レコードを除去することもできるという特徴がある。

(2) 米国特許の分割・継続の系図を表示できるのはFOCUSTとWIPSだけである。

(3) WIPSは代表図面一括ダウンロード機能(代表図面だけを一括でダウンロード。特許番号がファイル名になる)を有している。

(4) WIPSはアジアに弱いINPADOCファミリーを補完した形の「WIPSファミリー」情報を得られるという特徴もある。

(5) 他のデータベースとの併用が可能なものもある。DelphionはWPIファイルの検索も可能(別料金)であるし、PATOLISは国内情報との横断検索が可能である。WPI/Dialogは、Dialog上のすべてのファイル(文献ファイル、ニュースファイル等々)とのマルチファイル検索が可能である。

## 2. 13 料金がかかる

(1) ID数や契約によって料金が変わってく

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

る場合が多いので、データベース導入に際しては利用予定者数や使用目的をよく吟味して、各データベースの料金体系と照らし合わせる必要がある。

(2) 商用データベースは契約によっては高額であるが、どのデータベースも従量制以外に、包括的な料金設定（一部データベースは個別対応）もある。検索料金、ダウンロード数を気にせずに使用できるメリットは大きいため、ユーザー数や使用頻度が大きい場合には一考の価値がある。

(3) PatentWebはフル機能契約の場合、従量制＝基本料金約70万円/ID・年＋出力料金、固定料金制＝約450万円/ID・年であるため、ユーザー数が少ないとかなり割高であるが、1ID同時アクセスが可能であるため、利用者が多い会社ほどメリットがある。

(4) Delphionは何ととっても最も安価（フル機能契約で約70万円/3ID・年）である。

(5) FOCUSTは、フル機能契約の場合、最低でも400万円/ID・年とかなり割高である。

(6) QPATとWIPSは、フル機能契約で約120万円/ID・年と、WEB系データベースとしては中間的な価格設定である（但し、QPATのFamPatは別途契約が必要である。料金未定）。QPATは、追加IDが廉価（10ID追加なら約19万円/ID・年、20ID追加なら約10万円/ID・年）であり、また、フルテキストデータ系のための契約（約40万円/ID・年）もある。

(7) PatBaseは69万円/ID・年であるが、追加IDごとに50万円かかり、公報ダウンロードは別料金（プラス75万円が無制限ダウンロード可）であるため、ユーザー数が多いほど割高であり、公報ダウンロード無制限オプションをつけるとQPATやWIPSより高くなる。

(8) WPIは基本的に従量制であり、非会員は抄録の出力だけでも1件600円ほどかかるため、かなり割高である。

(9) PATOLISも基本的に従量制であり、PDF公報の入手が400円/件と割高であるが、和文翻訳の抄録を45円/件で入手できるなど、利用頻度が少なく、公報へのアクセスは無料データベースで行う場合などにはかえって割安である。

## 2. 14 アクセスに制限がある

(1) ID同時アクセスが可能なのはPatentWebのみ。

(2) FOCUSTは使用するPCも固定される。

(補足) 画面例を交えて説明した資料の一例  
機能別まとめの中で、詳しく説明した方がよいと思われる事項については、画面例を交えて説明した資料を作成した。紙面の都合上、画面例を交えた資料は「2. 3 検索機能に優れている」の事例のみ掲載した。

「2. 3 検索機能に優れている」の例

Delphion, FOCUST, QPAT, WIPSについては、利用者のレベルに合わせた複数の検索画面が用意されている。次の例はDelphionであるが、3種類の検索画面が用意されている。

### ① Quick/number Search (図1)

簡単なワードによる検索または、番号を直接入力して検索する画面

図1

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

### ② Boolean Search (図2)

予め選択可能な検索フィールドが用意されていて、そこにキーワードを入力する。そしてこれらのand, or, notの演算子をドロップダウンで選択して検索する。

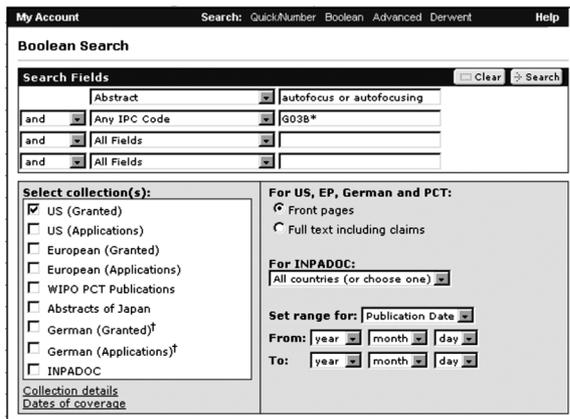


図2

### ③ Advanced Search (図3)

コマンドを使って検索フィールドの数や各フィールド間の演算子の制限を気にすることなく、自由に複雑な検索式を作って検索を実行する事ができる。

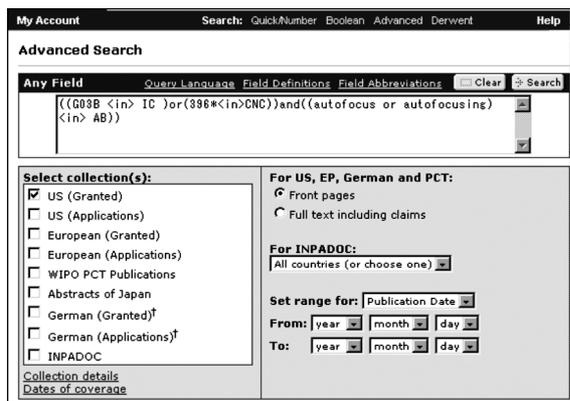


図3

また、検索では重要な項目であるIPCなどの分類検索において範囲検索が可能なものもある(QPAT, PatBase, WPI)。

分類範囲検索の代表的な例としてQPATの入

力例を示す(図4)。

検索を開始する分類と終了する分類を：(コロン)で結んで入力する。

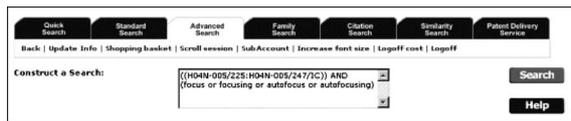


図4

WPIも全く同様である(図5)。



図5

次の例(図6)は、PatBaseであるが、IPC分類表を表示させて、その中から必要なものを選択して検索できるので、範囲検索と同等の機能を実現できる。

インデックス参照機能を用いて、必要な分類範囲を指定する。

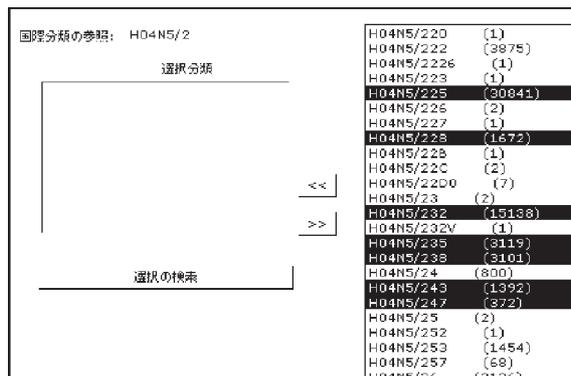


図6

図7のように検索画面に戻った時にIPC分類の入力欄に先ほど選択した分類が自動的に入力される。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

優先権番号 (PR):			
優先権主張日 (PRD):	から	へ	等しい
出願番号 (AP):			
出願日 (APD):	から	へ	等しい
種別コード (KD):			
発行国 (CC):			
指定国 (DS):			
引例 (CT):			
分類 (IC):	IPC分類の入力欄		
分類 (EC):	H04N5/225 OR H04N5/228 OR H04N5/232 OR H04N5/235 〇		
分類US (UC):			

図7

### 3. 各データベースの概要と特徴

各データベースの概要と特徴をまとめると以下の様になった。

#### <PatentWeb>

INPADOC検索が可能であり、ウォッチング機能有り。検索結果の加工機能が有用で、WorkSheetによるファミリー単位での表示、ファミリー内の重複除去等が可能。又、米国包装袋取り寄せが可能。1IDで複数同時アクセスができ、Strategy毎に検索式、結果および履歴を保存して複数人でのデータ共有が可能。法人契約で特に費用対効果が大きい。

#### <Delphion>

機能が豊富な割には料金設定が比較的安価である。出願人名を一覧から選択できるCooperate Treeや、検索結果を図面及び抄録とともに一覧表示可能である点に特徴がある。また、検索結果をWork Fileに保存し、一括ダウンロード、Snapshotによる統計表示やClusteringによる用語の統計分析などの付加機能も充実している。

#### <FOCUST>

引用情報及び解析機能が売り。系図表示、間接引用解析、引用SDI、2社間引用関係表示、発明者グループ推測機能などの独自機能あり。キーワードクラスタリングも可能。検索結果や

番号リストの内容を共有フォルダに保存し、一括ダウンロードや検索に利用可。本文言語が英語のものしか収録されない。日本語表示なので使いやすいが非常に高額。

#### <QPAT>

標準的なフルテキストデータベースにワールドワイド系のPlusPatと、そのPlusPatをファミリー化したFamPatが使えるため、多くの国の網羅的検索、公報入手での利便性が高い(但し、FamPatは別契約。料金未定)。検索面では各データベースでQuestel・Orbitのコマンドが使える、プロユースにも耐える検索機能を備えている。追加IDが割安でID数が10を超えると割安感がでる。複雑な検索や連続表示で件数が多い場合など、レスポンスがまいちの印象がある。

#### <PatBase>

検索結果の複数案件の書誌抄録印刷時一件毎に改ページして印刷ができる。いわゆるEXPAND機能がある。メニュー検索とコマンド検索が同一画面にあり、両者を自由に使える。ユーザー毎の利用料金を設定可能。1レコード1ファミリーである。画面の説明が日本語であり、オンラインヘルプも日本語である。ヒット分析ビュー機能があり、明細書を読む時に有効。

#### <WPI/Dialog>

タイトル及び抄録において全て独自に作成された英文が存在する。全世界主要40カ国を収録している(但し、うち15カ国については抄録なし)。ダウエントクラス、マニュアルコード、ケミカルコード、ポリマーインデキシングコード等独自コードによる検索が可能(但し、使用可能なコードは契約による)。料金は、従量制料金でかなり高額。

#### <WIPS>

韓国ベースのデータベースなので、中国、韓国情報が補強されたファミリー情報を提供している。日本語表示の説明は見やすい(変な日本語も多い)。明細書イメージのダウンロードは、

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

社内ネットワークのセキュリティ環境によってはうまくいかないケースが多そう。引用ツリー表示機能，キーワードクラスタリング機能，アクセス制限可能な共有フォルダ機能あり。料金体系は中間的。

<PATOLIS>

検索結果の公報に英文抄録の収録があれば，機械翻訳の日本語を併記して表示することができる。米国特許では，マニュアルで翻訳された和文抄録の表示も可能（機械翻訳の日本語のみでの表示も選択可能）。全文対象時の検索では，日本語キーワードのPATOLIS辞書を用いた英訳もあり。料金は従量制で判り易い。

#### 4. 外国商用データベースの機能比較

約150に上る機能について，比較検討を行い，比較表にまとめた。比較表全体について，本稿では紙面の都合上掲載を省略し，比較項目の大分類のみを挙げる。詳細は，CD-ROM資料を参照願う。

（比較項目；大分類）

- ・収録国，収録期間
- ・検索項目
- ・検索機能
- ・検索付加機能

- ・表示，出力
- ・その他付加機能
- ・料金

#### 5. 外国商用データベースの検索事例

各データベースの実際の検索イメージを掌握するために，基本的によく使われると思われる下記の検索事例をデータベース毎に画面例を交えて比較検討した。検索事例についても膨大なため詳細はCD-ROM資料を参照願う。

- ・出願人検索
- ・キーワード検索・IPC範囲検索と履歴間演算
- ・検索集合から詳細を表示する手順
- ・多数の公報のダウンロード

#### 6. 目的別比較表

主な導入目的となる項目について，下記評価基準に基づいて，検討メンバーが相互に評価し合い，目的達成度合いを★の数で表現した。

##### 6.1 ★の数の評価基準

(1) とにかく対象国が多い方が良い

★★★：US，EP，WO全文に加えてワールドワイド系の英文抄録データを標準で収録し，検索可能であるもの。ただし，WIPSは，韓国

表3 目的別比較表

目的	PatentWeb	Delphion	FOCUST	QPAT	PatBase	WPI	WIPS	PATOLIS
とにかく対象国が多い方が良い	★★	★		★★★★	★★	★★★★	★★★★	★★
とにかく安い方が良い： 少数（1～5人）向け		★★★★		★★	★		★	★
とにかく安い方が良い： 多数（50人～）向け	★★★★	★★		★★	★★		★★	
表示・出力重視	★★★★	★★	★★	★★	★★★★	★★	★★	★★
公報を多量に印刷 ダウンロード	★★★★	★★★★	★★	★	★★		★	★★
初心者でも使い易い	★★	★★	★★★★	★★	★★		★★	★★★★
機能重視のプロ向け	★	★★	★★		★★★★	★★★★	★	
引用解析機能重視		★★	★★★★	★★	★		★★	
加工・解析機能重視	★★	★★	★★★★	★	★		★★	

## ※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

(KPA), 中国 (CPA) の英文抄録テキストのみが検索対象だが, 特実全期間の原文明細書を収録しているので★★★とした。

★★: US, EP, WO全文に加えて, 他国の全文を収録し, 検索可能であるもの。(PatentWebはGB, DE, FR, JP {JAPIO英文抄録} を, PatBaseはGB, FRを収録。更にINPADOCファミリーデータにEspaceNet等の他のDBから抄録補充)

★: US, EP, WO全文のみ収録し, 検索可能であるもの。(Delphion)

なし: US, EP, WOについては本文言語が英語のものは全文を収録しているが, それ以外の言語分については, 書誌情報も未収録のもの。(FOCUST)

### (2) とにかく安い方が良い: 少数 (1~5人) 向け

知財もしくは情報部門に集中したフル機能ベースの利用で, 1ヶ月に一人300件以上の抄録と, 100件以上公報全文をチェックすることを想定した。3ID取得 (但し, 複数人同時ログイン可能なPatentWebは1ID) を前提とした。ただし個別交渉によるディスカウントやソリューションは考慮していない。

★★★: 100万円以下

★★: 100~200万円

★: 200~300万円

なし: 300万円以上

PatentWeb: 450万円 Delphion: 70万円

FOCUST: 600万円 QPAT: 180万円

PatBase: 300万円 WPI: 649万円

WIPS: 394万円 PATOLIS: 200万円

### (3) とにかく安い方が良い: 多数 (50~) 向け

全社に開放した場合を想定。50ID取得 (但し, 複数人同時ログイン可能なPatentWebは1ID) を前提。ただし個別交渉によるディス

カウントやソリューションは考慮せずに, 最高割引率が適応された提示料金の倍数で計算 (100万円/5IDなら, 1000万円と計算)。

★★★: 500万円以下

★★: 500~1000万円

★: 1000~3000万円

なし: 3000万円以上

PatentWeb: 450万円 Delphion: 1000万円

FOCUST: >3000万円 QPAT: 740万円

PatBase: 585万円 WPI: >3000万円

WIPS: 500万円 PATOLIS: >3000万円

### (4) 表示出力重視

全て表示には工夫がされているので, ★★を基礎点とし, プラスマイナスした。

PatentWebはファミリー化で★を一つプラス。

Delphionは代表図面サムネイル表示で★を一つプラス。しかしヒットタームの色分け, 強調表示機能無しで★を一つマイナスしたので, 結局プラスマイナスゼロ。

PatBaseはファミリー表示と, ヒットタームの色分け機能で合せ技で★を一つプラス。

### (5) 公報を大量に印刷, ダウンロード

まとめてダウンロード, 印刷できるものは★を基礎点とし, プラスマイナスした。

圧縮ファイルで一括ダウンロードできるPatentWeb, Delphionは各★を一つプラス。

QPATは1件ずつダウンロードなので★を一つマイナス。

WIPSは専用ダウンロードソフトに問題があるため, ★を一つマイナス。

### (6) 初心者でも使いやすい

コマンドを知らない初心者でも使えるものは基本的に★★とした。

WPIはコマンドを知らないと使えないため, ★なし。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

検索結果で日本語抄録表示が可能なものは★  
★★とした。

#### (7) 機能重視のプロ向け

- ・ コマンド検索可能
- ・ Expand機能または範囲検索機能
- ・ 式、集合の保存機能

の3点で比較した。

- ★★★★：上記条件を3つとも備えるもの
- ★★：上記条件を2つ備えるもの
- ★：上記条件を1つ備えるもの
- なし：他の条件を備えても式、集合の保存機能がないもの

#### (8) 引用解析機能重視

- ★★★★：ツリー表示機能+米国以外の国も対象+付加機能
- ★★：ツリー表示機能+米国以外の国も対象あるいは付加機能
- ★：米国ツリー表示機能のみ
- なし：引用解析機能がないもの

#### (9) 加工・解析機能重視

- ★★★★：2次元解析+クラスタリング+固有の機能があるもの
- ★★：2次元解析+クラスタリング
- ★：2次元解析のみ
- なし：加工、解析機能がないもの

## 7. 最後に

本研究テーマでは、8種類の外国特許データベースについて、機能面の比較だけでなく、使い勝手や契約形態も考慮し、また実例もいくつか挙げて比較している。しかし本稿では紙面の都合上省略が多く、本稿だけでも概要の把握は可能だが、別途発行のCD-ROM資料でより詳細を把握して頂くことをお勧めする。また外国

特許データベースを使い慣れていないユーザーの方においても、CD-ROM資料をご覧頂けば、外国特許データベース導入の際の参考になるのではないかと期待している。

外国特許データベースを開発・販売されている方々からみると、独断的な面があるかも知れないことはお許し願いたい。

本研究に快くご協力いただいた各データベース提供会社の皆様には改めて感謝の意を表したい。

尚、本稿は、日本知的財産協会2004年度情報検索委員会第3小委員会での研究テーマであり、下記アドバイザーの指導のもと、下記メンバーにより検討した結果をまとめたものである。

鶴田 佳邦 (ダイキン工業株式会社)

赤壁 幸江 (昭和電工株式会社)

犬塚 祐二 (株式会社トヨタテクノサービス)

清水 智美 (三菱化学株式会社)

三輪 保 (第一製薬株式会社)

吉沢 昭彦 (オリンパス株式会社)

アドバイザー

西井 貞男 (チッソ株式会社)

伊藤 徹男 (JSR株式会社)

小川 裕子 (オルガノ株式会社)

#### 注 記

- 1) EXPANDとは、出願人やIPC分類のように似かよった、あるいは隣りあった検索対象を一覧で表示させて選択できる機能である。
- 2) SDIとは「Selected Dissemination Information」の略で、対象を特定し、定期的もしくはデータ更新毎にデータを収集・監視・管理することである。
- 3) クラスタリングとは内容的に近いデータをまとめてグループ化する機能のことであり、キーワードクラスタリングとは、出現頻度の高いキーワードごとに、それらのキーワードを共有するレコードをグループ化する機能のことである。

(原稿受領日 2005年6月8日)